

刊夕日十二月五



定価 一月五拾五圓 三月一拾五圓 半年二拾五圓 一年五拾圓  
廣告料 五圓以上 二五圓以下 一行五圓 五圓以上 一行五圓  
日曜祭日の翌日休刊  
発行所 東京市本町三丁目 朝日新聞社  
電話 六三〇〇  
印刷所 東京市本町三丁目 朝日新聞社



### 波立薬師 三

霜月寮 白土五郎

△観音菩薩と薬師如来  
其の後數十年を過ぎたる夜のこと、俄に大暴風が烈しく吹きさす。木奴美ヶ浦の蒼龍は聲をそろいて怒號し、山は鳴り、太平洋の怒濤は白龍と化して狂奔した。曉天、不思議にもさした。大暴風雨も一時に止んだ。摩訶不思議なる哉。波立寺の前の磯の上に山なす用材漂着してゐる。浦人はかゝる奇異に打ち驚き、これは如何したことかと寄り集つて騒いだが知れなかつた。

その時相馬領標葉郡寺澤村の浦人四人波立寺を尋ねて来て、「私共、村に安置してあります仲禪寺観音堂を造營するために用材をそろいて置いたところ先日一夜の嵐に板一枚残らず何處にか押し流されてしまつた、それで住職初め浦人はこの不思議なるに心を痛めて居りましたところ、一夜勿体なくも観音菩薩の靈夢に『木奴美ヶ浦の波立寺に薬師瑠璃光如来をまつて諸病悉除の願を立て、一切の衆生を濟度し給ふ、然る

に未だ假堂鎮座し給ふこと久し、吾が造營の用材を悉く寄贈すべし」と告げましたから私共は観音菩薩のお告げを信じて使者として参りました」と語りましたので浦人一同はいよいよ薬師瑠璃光如来の功德のあらたかなのに感じた。寺澤村の浦人は尊像の前額つきその靈威に打たれ

と歸依して歸國した。するとこのことが時の大守下總守小親隆朝臣の御耳に達して殊の外御感心せられ、早速歸依して薬師堂及び本堂、仁王門、庫裡を造營することになった。この頃木奴美ヶ浦に中一屋善兵衛と言ふ木匠があつた、ある日の真夜中頃襖間

を開ける音に眼を醒すと朱の衣を着た氣高い僧が現れたので先づゴザを敷き恐れかきこまつてゐると、彼の僧は「吾れは薬師瑠璃光如来の使者である。汝速かに寺澤村観音菩薩より寄贈されし用材をもつて薬師瑠璃光如来の堂守を建立せよ……」とのたふたので善兵衛は平服して吾家の譽れよと心よく引き受け木浴して彼の僧の指圖によつて夜を徹して圖面をしき、弟子共を引き連れ精進して竣功したのは文明元年、今を去る四百六十六年前の昔である。

徳川が日本國中を平定統一して管掌する政策の一つとして寺院に特別の保護を加へて大衆の反抗意識を抑壓した。その時波立寺もその政策にもれず應安二年徳川家光より寺領として朱印六石を賜つた所謂御朱印寺の一時に列せられたのである。現存してゐる御堂は明和三年政策したものであつて薬師瑠璃光如来の傍の十二神は有名な天臺の僧惠心僧都の御作であると傳へられ前仁王尊は長一丈三寸行基菩薩の御作と傳へられ、あるが、それは云傳へに過ぎない。

**難波**

内科一般

醫學博士 **難波 睦**

看護婦募集

平町大町新川端  
電話 五〇〇二

**院**

**貴方の御家庭に**

お手不足は御座いませんか

**本會を御利用下さい**

**直に家政婦派出します**

料金は極めて低廉で  
妊産婦の御家庭 お留守居番  
御病人の付添 年寄やお子さんの付添  
炊事や雑用

**派出多忙に付會員至急募集**

平町紺屋町二（電話二三番）

**上原家政婦會**  
會主 産婆 上原通子

内科科 一般

**金成醫院**

金成 忠義

平鎌田町（電三五八）

石炭

豆炭

阿部石炭店

平驛前  
電話三十七番

**春の**

レンコート  
春のオーバー  
春のセビロ

御用命を！

平町 正 札堂洋服店  
電話四三番

**中野齒科醫院**

院長 日本齒科醫學士 中野 惠誠  
日本齒科醫學士 西川 次

一齒科一般  
工科 齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科  
一口腔外科 一レントゲン科

保存科補綴科 繼續架  
平町出町（松月堂向と）  
電話 五〇九番

磐城高等女學校

**夏の制服賣出**

輝く碧空の下に颯爽と  
なかやの制服で！

型・生地・裁縫細かい  
点にまで充分吟味して  
ございます。

1圓45銭

**なかや洋服店** 平・三  
電話 200

**吉田眼科醫院**

平紺屋町 電話六八番  
醫學士 吉田久雄

# 一里先きまでも

## 照らし出す信號

### 従来の發電信號と併せ

#### 夜間の鐵道事故に使用

列車の夜間に於ける突發事故に對しては従來平驛でも主に發電信號の爆音に依つて列車の

成功を見たが同信號は細を引けば自然發火して

爆音に 共に三分間に亘り附近一帶を照らし雨雪にも消えぬ強力なもので殊に二キロの遠方からも發見出来るので今後は前記發電信號と併用して列車の危険信號は一層強化される事になつた

#### 急停車

を行つて來たが同信號は遠方から發見する事が困難なので今回平保線區、平驛その他の主要驛に配設された發火信號の試験を去る十八日夜行つて大

## 魔の鐵道

### 踏切番を撤去

#### 道路の付替へ

川前村地内平、小野新町線は中道と濱通りを繋ぐ重要な路線であるが従來の路線は迂餘曲折して不便多きため同地内夏井川中川橋架替へ工事と共に同路線を

經費も除去される便宜上伊藤技師を現場に派して調査した結果、圓滿な歩みよりあるものと見られてゐる

#### 磐越東線

の南側に移すことになり、同時に路線移動に依つて從來二ヶ所所有つた踏切が解消されるため縣では仙鐵局に對して新路線開鑿に伴ふ助成方を折衝中であつたが鐵道側でも同所は昨夜列車

顛覆椿事を惹起した魔の個所であり、踏切番の

## 新設電話

既に通話開始

既報去る十八日抽籤決定した平郵便局の特設電話は加入者の便を計り同局が超スピードで架設工事着手したので抽籤後二日目で左の七加入電話が開通廿二、三日頃までには全部の開通が見られると

七二八、七二三、七二六、七二二、七二三、七二七

## 永年功勞の

### 山崎キン嬸その他七名を表彰

愛國婦人會平分會が初めて催す第一回の會員總會は來月十四日午前十時から新装なつた磐女講堂に開催と決定本縣支部長伊藤知事夫人その他の名流婦人を迎へて決議等あつた後同分會に貢獻する事廿四年に及んだ古銀治町山崎キン嬸外七名を永年勤績功勞者として表彰すると

#### 講堂前に

#### 立派な庭園

此の程竣工 磐女は新築なれる講堂に相應しい庭園を造る爲過般來中川教頭設計監督の下に工事中であつたが此程出來上り生徒は大喜びであると

## 學童の睡眠時間

### 平第一校の調査に依ると

#### 平均して標準よりも多い

既報山崎平驛長は來る廿五日から一週間に亘る平驛の公徳週間に参加する平少年團員の爲め二十四日第三小學校でその趣意に就いて講話すると

平第一校の衛生係は此程全校兒童の睡眠時間を調査したが平均時間は七歳から八歳迄が十時間、九歳が九時間かつた由

五十分、十歳から十四歳迄が九時間、一時間乃至二時間多かつた由

## 子供等の待焦れる

### 初旅のプラン成る

#### 特別仕立の臨時列車で日光から東京へ

既報平第一、第二、第三各小學校の六學年生が合同で日光から東京方面を廻る楽しい修學旅行は六月九、十日の兩日行はれる事は既記の如くである特別臨時列車が仕立られる筈で費用は汽車賃を始め拜觀料、宿泊料、茶代、遊覽バス代、記念寫真代等一切を合せて一人當り三圓五十錢、父兄は八圓五十錢である由プラン左記の如くである

(六月九日)平—水戸—友部 小山—宇都宮—日光

—東京途中日光東照宮

二荒神廟、三代廟參拜覽物殿其他見學東京に向ふ上野驛前上野亭、三芳館(第一校)那須館(第二校)かすみ館(第三校)に宿泊

(十日)東京、水戸—平—宮城、靖國神社、明治神宮、乃木神社、東京日々新聞社、上野公園、動物園見學歸平解散

## 鮫川改修

### 關係町村長

#### 上京し陳情

郡南を貫流する鮫川改修促進のため植田、錦、山田、川邊、上遠野、田人の各町村長は本廿日東京内務省へ陳情を行つたが同河川は春秋二期洪水氾濫して耕地堤防の欠損多く關係地方の被害甚大であるが未だ部分的の施設しかなく恒久的對策の講じられないうちは地元

平野人 事 回出 生

△三丁目四一 遊佐己義氏 二女敏子さん

不農業倉庫の共同販賣は明廿一日行はれるが本日迄の申込は三等三俵、四等二百二十九俵、五等六百七十六俵、等外三百二十五俵、合計千二百三十三俵で相場は依然強氣を見せて居る

磐女身体検査 磐女全校生の身体検査は今日二十日より五日間大森校醫に依り執行される

## 糸イラズ

專賣特許一―二四五二號 松 惠 製 藥 所

新時代に適合せる家庭必需品

裁縫 代用 糊

イトイラズ：即ち糸や針をせず毛織物や木綿布類の縫合(繕ひ)が樂に出來ます

特 何回洗濯しても離れず、伸縮自在(メリヤス、毛糸編物穴アキ)硬化する事なし

徵 (ヤフカラカデス)

イトイラズは當藥局に、永い間試用研究致し完全無欠の確信を以て發賣致しましたもので、絶對他品類似品の追従を許しません。東京三越、白木屋、松屋、松坂屋、高島屋各デパートに發賣中、すばらしい好評を博して居ります。

圖實物宣傳は各特約店に致し、居ります

平古鐵冶町縣社の下

## 阿康藥局

處方調劑所

電話 四四番

振替口座 東京三〇〇五

民は遂には塗炭の苦しみに落ちなければならぬと云ふのである

## 依然強氣

### 共同米申込

# 血氣の過失と判明

## 青年等全部を釋放

### ▽稀有の嚴戒を解除

#### ●警官負傷事件後報

(昨報)夏井町鎮守縣社大國魂神社例祭當日の警官負傷事件、就いては飽くまで事件の真相究明に平署は緊張し取調べを續行、百廿餘名の檢束者にトラック隊出動の未曾有の嚴戒振りを見せてゐたが取調べと共に原因には何等最初に疑惑を抱かされた警官への悪感情關係等は毛頭なく、血氣の青年等が元氣に採み過ぎた揚句の過失と判明した。下連沼縣議の斡旋に依り昨十九日夜に至つて全部釋放した。

#### 渡部巡查

##### 容態良好

神輿に胸部を強打され肋骨を折り平町播磨小路大河内外科醫院に入院加療中であつた平署渡部良と巡查は肺出血多量のため一時重態を危惧されてゐたが其後の経過次第に良好に向ひ心配な肺出血も止まつて未だ絶對安靜の域は脱しないが生命には別狀なく安堵の色が流れてゐる。

## 一札を入れ

### 今後の謹慎を

#### 平署長に誓ふ

別項夏井村の神輿暴行事件に就いては原因究明の結果故意のものでないこと判明したが平署は従來單に夏井村許りでなく神輿奉仕に油が乗り過ぎ神輿の争奪戦等を演ずる向が多く弊害も甚しいのでこの際等舊幣を一掃するため徹底的嚴戒處分に出ずるものと見られてゐたが恐懼した同地青年團

#### 遠足會を變更

既報平郵便局交換手の遠足は來

#### 金馬簾を授與

錦消防組はこの程縣保安課から

## 殺傷事件の

### 片破れ捕る

#### 自宅に立廻り

##### 張込の署員に

既報植田町の突如街頭に突發した殺傷事件で逃走中の茨城縣久慈郡久慈町字南町興行師唐半豊(三)は昨十九日午前十時頃肩書の自宅

に立寄つた處を有無を云はず張込み中の警官に取押へられ午後二時過ぎ植田署に押送された

## 馬市當て込みの

### 賭場の紛れから

#### 氣の荒い同志の双傷

##### 事件の内容明白

植田の殺傷事件の内容を仄聞するに殺された竹長は十五日から一週間植田町に開かれる臨時馬市に

賭博開張を當込んで

乗込み來つた唐半と共に高

原方を訪れ賭博開張を依頼

### 明日のラジオ

廿一日

今晩は北西の風曇り明日は北西の風天気次第によくなる

- #### 今晩の部
- 後六〇〇 子供の時間
  - 「物の始り」柳田國男
  - 後六二五 基礎英語講座
  - 鹽谷榮
  - 後七三〇 講演
  - 後八〇〇 落語「兵庫船」
  - 立花家花橋
  - 後八二五 清元「深山櫻
  - 及兼樹板」淨瑠璃清元梅
- #### 明日の部
- 前六二〇 基礎佛語講座
  - 丸山順太郎

- #### 明日の部
- 壽太夫
  - 後八五〇 管絃樂
  - 放送交響樂團
  - 後九三〇 時報 ニュー
  - ス 明日の話題 氣象通
  - 報 番組豫告
- #### 明日の部
- 前六二〇 基礎佛語講座
  - 丸山順太郎

- 前七〇一 朝の修養一楠公の教訓」陸軍中將林彌三吉
- 前九〇〇 衛生メモ
- 前一二〇 家庭講座
- 「保健衛生とより見たる野原」山内秀馬
- 後一〇〇五 琵琶「西郷隆盛」上原錦英
- 後一〇〇〇 小學生の時間
- 尋四童話劇「笛の名人」テ
- アル・ピッコロ
- 後一四〇〇 小學生の時間
- 尋五 東京學校放送研究會「日光見物」唱歌東京佐久間小學校兒童
- 後四二〇 夏多所大相撲實況(兩國)技館より中

- 後六〇〇 子供の時間
- 綴方朗讀「大東京の印象」仙臺市内小學校兒童見學團
- 後六二五 講演「東北に遺孫する五人組判度の話」經濟學博士田村浩
- 後七三〇 講演「新日本産業強化の道」栗本勇之助
- 後八〇〇 獨唱 平井美奈子
- 後八二〇 講演「逆手相撲」網綾川「旭堂南陵
- 後八五〇 義太夫「薫樹果物語」文樂座淨〇〇竹本鏡太夫

## 船の間に

### 頭を狭まれて

若い船乗りが重傷死亡

午後四時頃トラクを運轉高久村下原地内縣道を疾走中遊戯中の志賀スミ子(七)ちゃんに車体を接觸傷を負せ其の届出を怠つた廉に依り科料十圓に今二十日平區野木判事から略式命令を以て處分された

## 貯金詐取

### 防止方法

本縣東部三等郵便局長會は來る二十四、五の兩日相馬郡中村小學校講堂に開き磐崎村藤原郵便局提出の「貯金詐取防止の爲め貯金通帖一覽表調製の件」其他各局より提出される事項に就いて種々協議する

## 裁判一束

△豊間と鹽町七自動車運轉手高田清己(三)は四月八日

#### 平職業紹介所報告

- 回 人を求める方
- △荷上人夫 四十迄 尋卒
- 日給一圓
- △漁業雜夫 三十迄 月十二圓
- 回 職を求める方
- △土工夫 三十一才 無學
- △トラック助手 二十四才 高卒
- △女中 二十五才 尋卒
- △事務員 十九才 中卒
- △女中 十七才 尋五修



（藝上映上）  
 悟道軒圓玉（作）  
 丸尾至陽（書）

一二五 帶刀の厚意  
 名主は青木彌太郎を高いところから見おろして、こゝは地獄の一丁目だ、命のつるはいくら持つて来たか尻上りの音調で叫ぶ、青木はこれ聞いて

彌「おれははじめてこの牢と申す別世界に来たものださすれば獄内のことはとんと知らぬが、その命のつるとはどんな物だな」  
 とたづねた、すると二番役が、記名板といふ物を持つて立つて来た、これは桐でつくつたと紙を裁つときにつかふ定規のやうなもの、この板に細い棒にて入用なものをして役人に見せて取よせる、名を記すから記名板、しかしきめいと長く引くといひにくひそこをつめてきめ板、桐で出来たもので細い棒で書いたあとを水をふいてこするとその字は消える、こんな風に詳しく知つても拙者が体験したわけではない、これはその當時の牢役人から聞いて書いておいたものです、講談は事實に肉をつけたものです、歴史をぶちこはしたりまた事實を無視して途方もないことを



せるぞ」といつた時に名主が名「これ待て、お役人からの御沙汰はいたはつてやれとのことだ、きめ板はまけてやれまけてやれ」  
 かう言はれて二番役はあへさがつた、時に名主が名「新人、お前さんは揚り座敷の上者で揚り屋に入る人ぢやアねえが、去年の火事で揚り座敷が灰になつてまだ普請が出来ねえ、そこで一時この揚り屋におゐでなされる、悪いことをしもお役人よりの申し付けもあ

彌「金もあつたがそれは役人に取り上げられた、しでければ今手もとには一銭もないぞ」  
 と平氣でこたへた、二番役は記名板をふりあげて○「今名主様がいつた通りこゝは地獄の一丁目で二丁目のねえところだ、つるがなければこのきめ板をしよはしてすつてんおどりをさ

に座る、して見ると世疊敷かるところが十五疊より疊は見られない、妙なことをしたものです、さてしばらくするとお頭おまはりとお役人が申した、これを聞くとうら内はつそりとした、やがてこれへ来たはこのろう獄の係長石出帶刀、これは堂々たる旗本です、鍵番をつれて来て外袴に立つて内を見まはす、この時に鍵番が別條はないかと聞く、するとうら内から別條はございませんと答へる、もしこのろうにゐるものにて不平なことがあればすぐ石出帶刀に訴へて出る、これらは昔でも行き届いてゐた、その時石出帶刀は内袴に入り来り、これは前にも申しした通り袴とは格子のことです、角材で出来てゐる、格子といふ名義はあるが柵にひとさき、それへ入つて彌太郎を呼び出し

りますから牢法は娑婆にしておきます、まア、ゆつくりおちついておゐなせえ」  
 といつた、娑婆にするとはいきめ板を打つことは助けること、これから青木は衣類を着て疊の上へ座つた、牢は一体疊の敷いてある所ですが、大半それをあげて名主やまた役付がそれ

もあつたつてつかはす、入用のものなぞあらば當番の同心まで申し出ろ」  
 かういひました、これは青木とは懇意な仲、この當時の石出帶刀は前名を縫之助といひ青木とは同じ師について馬術を學びし者、それ故かういふことを申したなほ名主にむかつて青木は身分ある者ゆゑ手あつく取

扱へといひ渡して引取つた彌太郎はこれ聞いてその厚意を感謝した

女子和様  
 書道研究會

普通部  
 和歌  
 調和  
 手紙  
 文體

高等部（明春ヨリ設ク）  
 ・入會隨時  
 ・御申込ニヨリ略規進呈  
 ・男子ニテモ特別御希望ノ方ハ入會差支ナシ

柳香會  
 警署前

安齊外科醫院  
 平町・田町  
 電話四七五番

夜間  
**胃腸病性**  
 内科  
 胃腸病科  
 花柳病科  
 性病科  
 皮膚科  
**門 專**  
**院醫 性病 胃腸 村松**  
 （番〇七一町南町平）  
 療 間

平町十五丁目一九  
 （警署前）  
**柳香會**  
 中世古樵舟

平町十五丁目一九  
**玉屋洋品店**  
 平町田町通電話六五五番

**お醤油は ヤマフル**

福島縣平町  
**鹽屋**  
 電話二一〇番

明治生命警城代理店 山崎與三郎

醬油 味噌  
 たひら正宗  
 鯉節食料品

元造 醸